

物故者追悼式 2025.11.28

本校では毎年、カトリック教会で「死者の月」とされる11月の終わりに物故者追悼式を行い、この一年間に物故された旧職員や卒業生、生徒保護者など学園関係者を追悼しております。

当日は生徒全員が学生服を着用し、厳粛な雰囲気で式典が行われました。

校長が物故者名簿を読み上げ、参列者は司祭とともに物故者に祈りを捧げます。教員代表が聖書を朗読し、皆で司祭のお話を聴きます。司祭からは「学園の発展に尽くされた物故者に感謝し、また皆さんも自分の中にある素晴らしいものを見いだし、それを育てていく気持ちを再確認しましょう」というお話をいただきました。

その後、校長、物故者遺族、クラス代表、職員・同窓会・PTA・母の会代表などによる献花がなされ、生徒代表や教員代表などが物故者へのメッセージを伝える「共同祈願」を行い、讃美歌を斎唱して式典は締めくくられました。

今年も式典の間、会場は水を打ったように静まりかえりました。生徒諸君は、この式典に列席して祈り、さまざまな言葉を耳にすることで、日頃よほどのことがなければ意識にものぼらない「死と生」について考えます。もちろん簡単に結論が出るものではありませんが、そのような答えの見えない問いを考え続けることには大きな意味があります。またそこから、自分が今生きていることが決して当たり前ではないことに思い至る生徒も少なくありません。生徒諸君はこの式典を在学中に3回もしくは6回経験することになりますが、そのことが自分の命や他者の存在を大切にする気持ちにもつながっていると信じます。



校長による物故者名簿読み上げ



司祭とともに物故者を追悼



生徒代表による献花



讃美歌斎唱